

ちび

千葉県農林水産業の動向

— 令和6年度版 —



令和6年6月

千葉県マスコットキャラクター
チーパくん

千 葉 県

はじめに

近年、相次ぐ災害や人口減少、不安定な国際情勢など、本県を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方、成田空港の更なる機能強化や、圏央道、北千葉道路など広域的な道路ネットワークが完成しつつある中で、半島性を克服し、県内の活力をより一層高める好機を迎えています。

また、令和6年5月には、農政の憲法とされる食料・農業・農村基本法の改正法が成立するなど、農業政策の大きな転換点にさしかかっています。

県では、「千葉県総合計画～新しい千葉の時代を切り開く～」の実現のために、具体的な取組を示した「千葉県農林水産業振興計画（令和4年度～7年度）」を令和4年3月に策定して各種施策に取り組んできたところですが、農林水産業を取り巻く環境は、物価の高止まり等の影響により、厳しい経営環境が続いており、県としても一層の農林水産業の振興を図っていくことが重要と考えています。

本書は、千葉県農林水産業の現在の動向をとりまとめたものです。

さつまいも、梨などの品目を核とした集中プロモーション、農林水産物の輸出促進、千葉県農林水産業を支える人材育成等に対応した各種施策を、農林漁業者や関係団体の皆様と一体となって推進してまいります。

生産者や関係機関、関係団体の皆様におかれましては、本県農林水産業の振興のため、本書を御活用いただければ幸いです。

令和6年6月

千葉県農林水産部長 前田 敏也

目 次

はじめに

I 千葉県農林水産業の概要

1 千葉県のすがた	1
2 産業別就業人口	1
3 産業別県内総生産	2
4 土地利用	2
5 農業生産	3
6 森林・林業	4
7 漁業生産	4
8 農家・漁家率	5
9 食料自給率	5

II 農業の動向

1 農業産出額からみた本県農業	7
2 農業構造の動向	
(1) 農家	9
(2) 農業従事者	10
(3) 農業経営体・販売農家数の現状	11
(4) 農地所有適格法人等の現状	13
(5) 集落営農組織の現状	14
(6) 認定農業者	15
(7) 農業の新たな担い手	17
(8) 就農準備資金・経営開始資金	18
(9) 耕地	19
(10) 農用地の流動化と利用集積	21
(11) 都市農業	22
(12) 荒廃農地	22
(13) 多面的機能支払・中山間地域等直接支払・環境保全型農業直接支払	23
(14) 野生鳥獣による被害状況	24
(15) 生産基盤の整備	26
(16) 農業協同組合	30
3 主要農産物の生産動向	
(1) 米	32
(2) 麦	34
(3) 大豆	35
(4) 落花生	36
(5) いも類	37
(6) 野菜	38
(7) 果樹	43
(8) 花き・植木	44

(9) 環境にやさしい農業	46
(10) 飼料作物	49
(11) 畜産	51
4 主要農業構造指標の地域別特化	57

III 森林・林業の動向

1 森林資源	58
2 林業構造	59
3 森林整備	60
4 林産物	62
5 路網整備	67
6 森林病虫害	67
7 森林の公益的機能と県土の保全	67
8 県民の森	68
9 県営林・公益保全林	69
10 法人の森	69
11 里山活動団体	69
12 企業や団体等による森林整備	69

IV 水産業の動向

1 漁業生産の動向	
(1) 海面漁業・養殖業生産量	70
(2) 海面漁業・養殖業産出額	71
(3) 魚介藻類生産量の全国順位	71
(4) 内水面漁業の生産量	72
(5) 内水面養殖業の生産量	74
(6) 主な魚種別生産量	75
(7) 水産加工業	76
(8) つくり育てる漁業	77
2 水産業構造の動向	
(1) 漁業経営体数	79
(2) 業種別漁労体数	80
(3) 漁業就業者数	80
(4) 漁業の担い手の確保	81
(5) 漁業従事世帯員数	82
(6) 漁船数	83
(7) 水産業協同組合	85
(8) 沿海地区漁協等	87
(9) 漁港整備	88

V 横断的・戦略的な項目の動向

1 県産農林水産物・食品の輸出	89
-----------------	----

2	6次産業化	92
3	農林水産物直売所	93
4	新たな技術の開発	95

VI	東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故の影響と対応	98
----	----------------------------	----

トピックス

・	千葉県産農林水産物の重点プロモーションの取組	6
・	地域計画の策定について～地域農業・農地利用の未来設計～	22
・	ジビエ処理加工施設、増加中！	25
・	広域営農団地農道整備事業「東総台地地区」の供用開始	29
・	県産さつまいもの生産・流通体制の強化に向けて ～「さつまいも生産拡大緊急プロジェクト事業」を創設！～	45
・	千葉県総合防除計画の策定	48
・	牛乳消費拡大に向けた「高齢者施設職員向けの乳和食料理教室」の開催	56
・	「建築物木材利用促進協定」の締結	66
・	漁場環境変化への対応	78
・	新たな漁業取締船「ふさかぜ」の竣工	78
・	漁業の担い手対策について	84
・	千葉県産農林水産物輸出活性化検討会議の開催	91
・	千葉県グリーン・ブルーツーリズム推進ネットワーク会議を設置	94
・	県開発の水稻生育予測システム「でるた」が本格運用開始	97

[参考]

1	市町村別主要農業構造指標	106
2	千葉県農業の主要指標	110
3	千葉県農業の主要指標の推移	111
4	千葉県森林・林業の主要指標	112
5	千葉県水産業の主要指標	113
6	農林水産業災害の状況	114
7	生産資材(A重油・家畜飼料・肥料)の購入価格の推移(全国)	120
8	主要農畜産物の生産費の推移(水稻・生乳)	121
9	我が国の食料需給動向	123
10	千葉県農産物の全国ランキング(令和4年)	124
11	千葉県水産物の全国ランキング(令和4年)	128
12	農林水産部予算課別総括表(一般会計)	130
13	農業産出額上位道県における、当初予算額と農業産出額の推移	131
14	ちばの旬(青果物)	132
15	ちばの旬(花き)	134
16	ちばの旬(水産物)	136
17	千葉県で行われている漁業	137
18	千葉県農林水産部組織体系図	138
19	統計関係用語集	139
20	令和5年度の千葉県農林水産業の主なできごと	141

I 千葉県農林水産業の概要

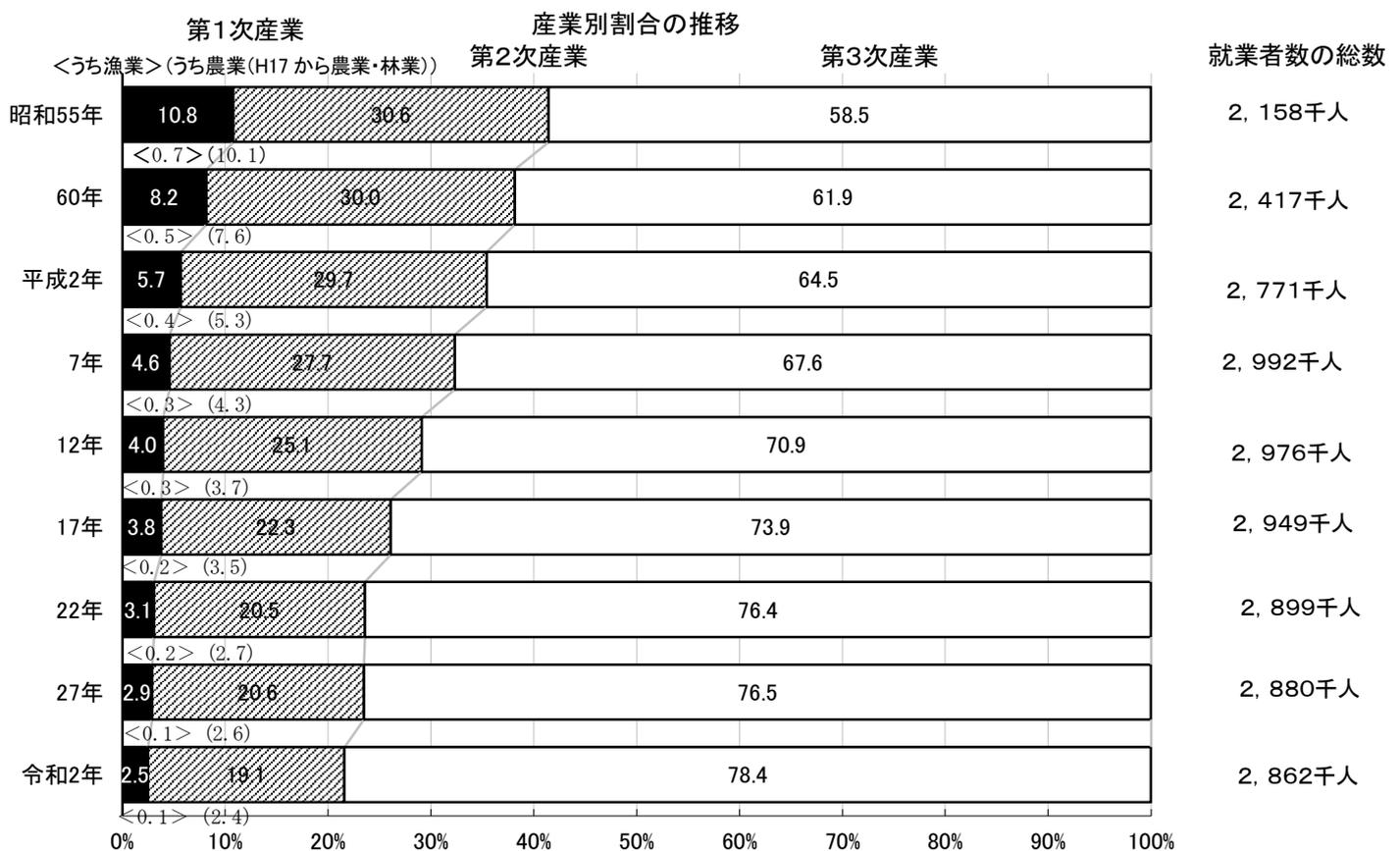
1 千葉県のすがた

- (1) 千葉県は、首都圏の東側に位置し、南東は太平洋、西は東京湾に面し、太平洋に突き出た半島になっている。また、北西は東京都と埼玉県に、北は茨城県に接している。
- (2) 面積は、5,156.72 平方キロメートル、全国第 28 位であり、東京都と神奈川県を合わせたよりも広い。(令和 5 年 10 月 1 日現在)
 地勢は、南部の 200～300m 級の山々が続く房総丘陵、東京湾岸の低地、北部の比較的平坦な下総台地、利根川流域と九十九里沿岸に広がる平野となっている。(県内最高峰：愛宕山 408m)
 海岸線の長さは、531km(令和 4 年 3 月 31 日現在)に及び、変化に富んだ景観を見せている。
- (3) 三方を海に囲まれた千葉県は、冬暖かく夏涼しい海洋性の温暖な気候である。特に南房総沿岸は、沖合を流れる暖流(黒潮)の影響を受け、冬でもほとんど霜が降らない。降水量は、夏季に多く、冬季は少ない気候となっている。

2 産業別就業人口(平成 27 年比 総就業者数 18 千人減、うち 1 次産業 1.1 千人減)

- (1) 県内総就業者数(令和 2 年)は 2,862 千人で、産業別には、第一次産業が 69 千人(産業別割合※2.5%)、第二次産業が 527 千人(同 19.1%)、第三次産業が 2,167 千人(同 78.4%)、分類不能の産業が 99 千人となっている。農業、林業は 66 千人(同 2.4%)、漁業は 3 千人(同 0.1%)となっている。
- (2) 平成 27 年と比較すると、総数で 18 千人、第一次産業で 10.7 千人、第二次産業で 32.7 千人減少し、第三次産業で 84.2 千人増加している。産業別の構成比はほぼ横ばいである。

※割合は、分母から「分類不能の産業」を除いて算出している。(資料：国勢調査)



3 産業別県内総生産（県内総生産は名目で0.3%増、農林水産業15.4%減）

- (1) 令和3年度の千葉県経済の規模（県内総生産）は名目で20兆8,070億円、実質で20兆4,780億円となり、経済成長率は名目で0.3%増、実質2.2%増となった。
- (2) 農林水産業の名目総生産額は1,535億円で、前年度に比べ15.4%減、県内総生産に占める構成比は0.7%となった。

経済活動別県内総生産（生産側・名目）

（単位：億円、%）

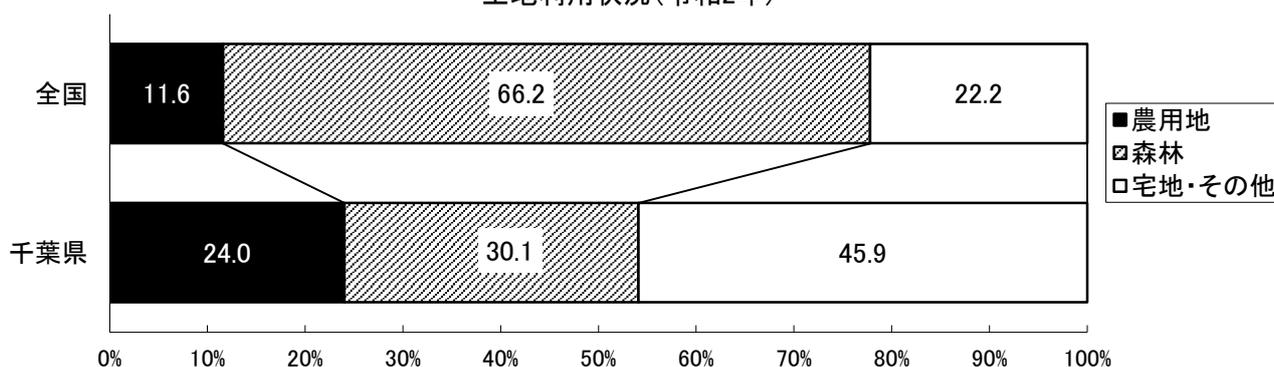
区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
農林水産業	2,379	1.1	2,045	1.0	1,926	0.9	1,814	0.9	1,535	0.7
うち農業	2,213	1.0	1,884	0.9	1,789	0.8	1,688	0.8	1,418	0.7
うち林業	14	0.0	18	0.0	18	0.0	19	0.0	21	0.0
うち水産業	151	0.1	143	0.1	118	0.1	107	0.1	96	0.0
第2次産業	52,500	24.6	51,866	24.1	49,963	23.5	53,673	25.9	51,731	24.9
第3次産業	157,835	73.8	160,195	74.6	159,880	75.2	151,215	72.9	152,733	73.4
小計	212,714	99.5	214,106	99.6	211,769	99.6	206,702	99.6	205,998	99.0
輸入税	3,507	1.7	3,784	1.8	3,690	1.7	3,675	1.8	4,271	2.1
その他（控除）	2,491	1.2	3,031	1.4	2,778	1.3	2,904	1.4	2,199	1.1
県内総生産	213,731	100	214,859	100	212,682	100	207,473	100	208,070	100

（資料：令和3年度千葉県県民経済計算）

4 土地利用（全国に比べ農用地割合は2倍）

- (1) 千葉県の総面積は51.6万haであり、主な土地利用状況（令和2年）をみると、農用地が12.4万ha（24.0%、前年比1,037ha減）、森林が15.5万ha（30.1%、前年比400ha減）、宅地・その他が23.7万ha（45.9%、前年比1,434ha増）となっている。
- (2) 全国平均と比べると農用地、宅地・その他の割合が約2倍と高くなっており、森林の割合は全国平均の半分以下である。

土地利用状況（令和2年）



千葉県の土地利用（令和2年）

（単位：万ha・%）

項目	総面積	農用地	森林	宅地・その他	備考
全 国 （構成比）	3,780 (100.0)	437 (11.6)	2,503 (66.2)	840 (22.2)	資料： 全 国：「令和3年度土地に関する動向」 （国土交通省調べ） 千葉県：土地利用現況把握調査 （政策企画課調べ）
千 葉 県 （構成比）	51.6 (100.0)	12.4 (24.0)	15.5 (30.1)	23.7 (45.9)	

5 農業生産（産出額は3,676億円で全国第4位、生産農業所得は全国第5位）

- (1) 令和4年の農業産出額は3,676億円（前年比205億円増）で、全国第4位となった。
- (2) 農業産出額の構成は、米が472億円（前年比6億円増）、野菜・果実・花きを合わせた園芸が1,624億円（前年比56億円増）、畜産が1,226億円（前年比132億円増）と、園芸を中心とした農業が展開されており、首都圏の重要な食料供給基地の役割を担っている。
- (3) 生産農業所得は1,220億円（前年比37億円減）となり、全国第5位となった。

千葉県農業生産の位置（令和4年）

項目	順位	1	2	3	4	5	全国
農業産出額 (億円)		北海道 12,919	鹿児島県 5,114	茨城県 4,409	千葉県 3,676	熊本県 3,512	90,015
生産農業所得 (億円)		北海道 4,742	茨城県 1,517	鹿児島県 1,493	熊本県 1,446	千葉県 1,220	31,051

（資料：令和4年農業産出額及び生産農業所得）

主な部門別の農業産出額（令和4年）

（単位：億円・%）

項目	合計	米	豆類	いも類	野菜	果実	花き	畜産	畜産の主な内訳		
									乳用牛	豚	鶏
千葉県 (構成比)	3,676 (100.0)	472 (12.8)	103 (2.8)	215 (5.8)	1,335 (36.3)	91 (2.5)	198 (5.4)	1,226 (33.4)	249 (6.8)	467 (12.7)	381 (10.4)
千葉県の 全国順位	4	8	2	4	3	23	2	8	5	5	7
全国 (構成比)	90,015 (100.0)	13,946 (15.5)	715 (0.8)	2,199 (2.4)	22,298 (24.8)	9,232 (10.3)	3,493 (3.9)	34,678 (38.5)	9,013 (10.0)	6,713 (7.5)	9,716 (10.8)
〈参考〉 R3 千葉県 (構成比)	3,471 (100.0)	466 (13.4)	93 (2.7)	215 (6.2)	1,280 (36.9)	101 (2.9)	187 (5.4)	1,094 (31.5)	257 (7.4)	393 (11.3)	326 (9.4)
〈参考〉 H24 千葉県 (構成比)	4,153 (100.0)	814 (19.6)	59 (1.4)	186 (4.5)	1,653 (39.8)	158 (3.8)	183 (4.4)	1,042 (25.1)	264 (6.4)	369 (8.9)	345 (8.3)

（資料：農業産出額及び生産農業所得）

農業構造（令和5年）

（単位：ha・千経営体・%）

項目	耕地	田	畑	農業 経営体	経営体		
					個人 経営体	団体 経営体	法人 経営体
千葉県 (構成比)	120,300 (100)	71,500 (59)	48,800 (41)	31.4 (100.0)	30.4 (96.8)	1.0 (3.2)	0.9
全国順位	10	11	7	7	6	13	6

（資料：令和5年耕地及び作付面積統計・令和5年農業構造動態調査）

6 森林・林業（全国に比べ森林率は約2分の1）

- (1) 千葉県の森林面積は14.5万haで全国第40位、蓄積は26.3百万m³で42位、森林率は28.1%で47位と総体的に低位にある。また、人工林率は33.4%で、全国平均40.3%を下回っている。
- (2) 林家数は1.1万戸で全国第28位であり、林家1戸当たりの保有山林面積は3.3haで全国平均の49%である。
- (3) 令和4年の特用林産物の生産は、竹材が10.8千束で全国第7位(前年9位)、たけのこは406.1tで10位(前年13位)と比較的上位にある。生しいたけは2,627.5tで全国第11位(前年6位)となっている。

森林資源と林家数及び林産物生産量

項目	森林資源				林家数 (万戸)	生産量			
	森林面積 (万ha)	人工林率 (%)	蓄積 (百万m ³)	森林率 (%)		素材 生産量 (千m ³)	生しいたけ 生産量 (t)	竹材 生産量 (千束)	たけのこ 生産量 (t)
千葉県	14.5	33.4	26.3	28.1	1.1	91	2,627.5	10.8	406.1
全国順位	40	40	42	47	28	39	11	7	10

- (注) 1 千葉県の森林面積、人工林率、蓄積、森林率はR5.3.31現在の数値(令和4年度千葉県森林・林業統計)
 2 森林面積、人工林率、蓄積、森林率の全国順位はR4.3.31現在の数値(林野庁「森林資源の現況」)
 3 林家数は2020年農林業センサス
 4 素材生産量、特用林産物の生産量及び全国順位(生しいたけ、竹材、たけのこ)は、令和4年次の数値(令和4年木材統計、令和4年特用林産基礎資料)

7 漁業生産（海面漁業漁獲量が全国第6位、海面陸揚金額が全国第6位）

- (1) 令和4年の海面漁業・養殖業生産量(属人)は、108,251t(前年比0.7%減、806t減)で全国第9位(前年12位)、産出額は約215億円(前年比10%増、19億円増)で全国19位(前年19位)となった。生産量の内訳は、海面漁業漁獲量が103,222t(前年比2.2%減、2,283t減)で全国第6位(前年7位)、海面養殖業収獲量が5,029t(前年比41.6%増、1,477t増)で全国第22位(前年23位)である。
- (2) 令和3年の海面陸揚金額(属地)は、444億円(前年比4.5%減、21億円減)で全国第6位(前年6位)である。
- (3) 令和4年の内水面漁業・養殖業生産量は127t(前年比1.6%増、2t増)で、全国33位(前年33位)である。内訳は、内水面漁業漁獲量が23t(前年比11.5%減、3t減)、内水面養殖業収獲量が104t(前年比5.1%増、5t増)である。

漁業生産量(令和4年)・海面陸揚金額(令和3年)

順位	海面漁業・養殖業生産量		海面漁業漁獲量		海面陸揚金額	
	都道府県名	生産量(t)	都道府県名	漁獲量(t)	都道府県名	金額(億円)
1位	北海道	985,112	北海道	870,286	北海道	1,772
2位	茨城県	285,164	茨城県	285,164	宮城県	700
3位	長崎県	285,016	長崎県	262,233	鹿児島県	519
4位	宮城県	276,065	宮城県	187,176	長崎県	507
5位	静岡県	149,617	静岡県	147,231	静岡県	496
6位	青森県	143,149	千葉県	103,222	千葉県	444
7位	愛媛県	129,276	島根県	97,843	愛媛県	397
8位	広島県	116,234	鳥取県	82,290	青森県	336
9位	千葉県	108,251	岩手県	74,815	佐賀県	260
10位	岩手県	107,261	宮崎県	68,406	福岡県	244
11位	兵庫県	104,723	愛媛県	65,018	兵庫県	240
12位	島根県	98,555	三重県	64,919	高知県	240

(資料：令和4年漁業・養殖業生産統計、令和3年漁港港勢)

8 農家・漁家率（農家、漁家共に年々減少）

- (1) 県総世帯数及び総人口に占める農家率は、都市化に伴う世帯数・人口の増加と、農家数・農家人口の減少によって年々低下している。
- (2) 平成7年に2,015千戸だった県の総世帯数は、令和2年には2,774千戸と759千戸あまり増加した。

これに対し、平成7年に105千戸だった農家数は、令和2年には、51千戸と54千戸あまり減少し、5.2%だった農家率は、1.8%まで減少した。

また、平成7年に5千戸だった漁家数は、平成30年には2千戸と3千戸あまり減少し、漁家率も0.2%から0.1%と減少した。

千葉県農家・漁家率

(単位：千戸・千人・%)

区分	平成7年	12年	17年	20年	22年	25年	27年	30年	令和2年
総世帯数	2,015	2,173	2,325	2,454	2,516	2,573	2,609	2,726	2,774
農家数	105	92	82	—	74	—	63	—	51
農家率	5.2	4.2	3.5	—	2.9	—	2.4	—	1.8
漁家数	5	4	4	3	—	2	—	2	—
漁家率	0.2	0.2	0.2	0.1	—	0.1	—	0.1	—

－：未公表のもの

(資料：千葉県毎月常住人口調査、農林業センサス、漁業センサス、千葉県農林水産統計年報)

(注) 総世帯数は千葉県毎月常住人口調査の10月1日時点の数値。

漁家数は漁業センサス及び千葉県農林水産統計年報の個人経営体数

9 食料自給率（生産額ベースは46%、カロリーベースは24%）

- (1) 千葉県の令和3年度のカロリーベースの食料自給率（概算値）は24%で、全国第35位である。
- (2) 千葉県の食料自給率が低い理由としては、熱量が低い野菜等の生産が多いこと、人口が多いことがあげられる。

令和3年度都道府県の食料自給率及び全国順位(概算値)

全国順位	都道府県	食料自給率		〈参考〉人口
		カロリーベース	(生産額ベース)	
	全 国	38%	(63%)	125,502千人
1位	北海道	223%	(4位) (220%)	5,183千人
2位	秋田県	204%	(11位) (138%)	945千人
3位	山形県	147%	(6位) (175%)	1,055千人
8位	鹿児島県	79%	(2位) (271%)	1,576千人
13位	茨城県	70%	(16位) (113%)	2,852千人
15位	宮崎県	64%	(1位) (286%)	1,061千人
35位	千葉県	24%	(33位) (46%)	6,275千人
45位	神奈川県	2%	(45位) (11%)	9,236千人
46位	大阪府	1%	(46位) (5%)	8,806千人
47位	東京都	0%	(47位) (2%)	14,010千人

カロリーベース

都道府県別食料自給率 (%) =

$$\frac{1人・1日あたりの各都道府県産熱量}{全国の1人・1日あたり供給熱量(2,266 kcal)} \times 100$$

純食料100gあたりの熱量

米(342.0 kcal)・いも類(71.0 kcal)・
野菜(27.4 kcal)・果実(75.5 kcal)・
肉類(193.1 kcal)

(令和3年度食料需給表(確定値))

(資料：令和3年度 都道府県別食料自給率(概算)、総務省「人口推計」(令和3年10月1日現在))

千葉県産農林水産物の重点プロモーションの取組

県では、多彩な農林水産物を一体的に PR するため、関係団体等と連携して、県内外の量販店で販売する「千葉県フェア」や県内各地の直売所でのキャンペーン、イベント出展など、様々な販売促進活動を実施しています。

県産農林水産物のさらなる販売力強化を図るため、令和 5 年度から、日本なしやさつまいも、「粒すけ」など「千葉県の顔」となる品目を選定し、品目ごとにターゲットや PR 手法を定めながら集中的なプロモーションを行っています。

令和 5 年度は、日本なしとさつまいもを中心とした取組を実施しており、日本なしについては、生産量が日本一であることを訴求するため、クイズ参加型のプレゼントキャンペーンのほか、売場装飾用ののぼりや消費者向けリーフレットの作製などを実施しました。

さつまいもについては、高級感やご褒美スイーツのような、さつまいもの新しいイメージを発信するため、「^{ルージュ}紅のご褒美」をキャッチコピーとして、イメージに親和性の高い著名人をアンバサダーに起用し、千葉のさつまいもエキスポなどイベントへの出演や、SNS での情報発信を行うことで、認知度向上を図っています。

加えて、「粒すけ」については、新しいキャッチコピー「極上の大粒体験。」を作成し、販促資材や新聞広告に起用したほか、学校給食と連携した企画を通して認知度向上、消費拡大に取り組みました。

今後も、重点品目の集中的なプロモーションを行い、消費者が千葉県の農林水産物を優先して選びたいくなるような“イメージ”を定着させ、県産農林水産物全体の販売力強化に繋がっていきます。

